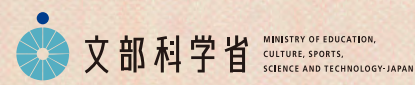




【編集/発行】横浜市教育委員会事務局小中学校企画課
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 横浜市ESD推進コンソーシアム
E-mail: ky-esd@city.yokohama.jp



本事業は文部科学省SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業として行われています。

この冊子は森林保全を目的として適切に管理された木材を使用した、FSC認証紙を使用しています

2023年度 横浜市ESD推進コンソーシアム実践報告書 2024年2月発行

横浜市教育委員会



2023年度 横浜市ESD推進コンソーシアム 実践報告書

令和5年度 文部科学省SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業



主な掲載内容

- ◆ 横浜市 ユネスコスクール・ESD推進校実践事例
- ◆ 横浜市ESD推進コンソーシアム委員寄稿
- ◆ 横浜市ESD推進コンソーシアム活動レポート
- ◆ 参考資料（講演レポート・横浜市ESDの変遷）

横浜市教育委員会

目次

はじめに 横浜市ESD推進コンソーシアム・コーディネーター
 東京都市大学大学院 環境情報学研究科 教授 佐藤 真久

本市の令和5年度ESD推進事業について

第1章 横浜市立 ユネスコスクール・ESD推進校の実践事例	6
1 永田台小学校 ユネスコスクール	7
2 幸ヶ谷小学校 ユネスコスクール	9
3 市ヶ尾中学校 ユネスコスクール	11
4 東高等学校 ユネスコスクール	13
5 みなとみらい本町小学校 ユネスコスクール	15
6 三保小学校 ユネスコスクール・キャンディデート	17
7 羽沢小学校 ESD推進校（継続校）	19
8 恩田小学校 ESD推進校（継続校）	21
9 荏田西小学校 ESD推進校（継続校）	23
10 大門小学校 ESD推進校（継続校）	25
11 中和田中学校 ESD推進校（継続校）	27
12 西本郷中学校 ESD推進校（継続校）	29
13 西柴中学校 ESD推進校（継続校）	31
14 中尾小学校 ESD推進校（継続校）	33
15 本牧中学校 ESD推進校（継続校）	35
16 小田中学校 ESD推進校（継続校）	37
17 中川西中学校 ESD推進校（継続校）	39
18 相沢小学校 ESD推進校（継続校）	41
19 旭小学校 ESD推進校（継続校）	43
20 本牧南小学校 ESD推進校（継続校）	45
21 新井中学校 ESD推進校（継続校）	47
22 南希望が丘中学校 ESD推進校（継続校）	49
23 豊田小学校 ESD推進校（継続校）	51
24 鉄小学校 ESD推進校（継続校）	53
25 並木中学校 ESD推進校（継続校）	55
26 希望が丘中学校 ESD推進校（継続校）	57
27 緑園義務教育学校 ESD推進校（継続校）	59

第2章 社会に開かれた教育課程における連携・協働の意義調査研究報告書 複雑性に向き合い、学びと協働の往還による探究モードへの挑戦	62
横浜市ESD推進コンソーシアム・コーディネーター 東京都市大学大学院 環境情報学研究科 教授 佐藤 真久	

第3章 横浜市教育委員会としてのESD推進コンソーシアム活動	74
2023年度横浜市ESD推進校ステークホルダー交流会	75
2023年度横浜市教育センター研究発表会 「社会に開かれた教育課程における連携・協働の意義」	78
2023年度横浜市ESD推進コンソーシアム交流報告会	81

児童生徒の部
 教職員の部

参考資料

横浜市では、平成 28 年度(2016 年度)の文部科学省「グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業」の採択を受けて以来、全ての横浜市立学校で、ESD の理念に基づく教育が広がるような取組を展開してきました。事業の推進においては、多様な組織が参加・連携した「横浜市 ESD 推進コンソーシアム」を立ち上げ、以下のような ESD に関連するキーワードのもとで、取組が展開されてきました。

表:「横浜市 ESD 推進コンソーシアム」で活用されてきた ESD 関連のキーワード

- 持続可能な開発のための教育(ESD)
- ホールスクール・アプローチ
- 多様な主体とのパートナーシップ
- ESD のレンズ:見直す(批判的)、つなげる(統合的)、変わる(変容的)、地域で世界へ(文脈的)
- SDGs の特徴:普遍性、包摂性、参画性、統合性、透明性
- SDGs を学ぶ、SDGs に学ぶ、SDGs と学ぶ
- カリキュラムデザインと学校運営の連関
- 未来につながる、未来につなげる
- 「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会
- 学びの可視化、プログラムの評価

本取組では、当初から ESD を学校全体で取り組むこと(ホールスクール・アプローチ)を軸に据え、展開してきました。「ホールスクール・アプローチ」は、(1)学校におけるガバナンスと能力開発、(2)学校施設の運営、(3)カリキュラムの編成・実施と教授・学習活動、(4)学社連携の 4 領域に配慮をしたものであり、その相互性が強調されたアプローチと言えるでしょう。本取組においても、カリキュラムデザインと学校運営を連関させたアプローチを採用し、さまざまな取組を「見直す、つなげる、変わる、地域で・世界で」のレンズで考えることを、教職員、学校関係者、保護者、児童生徒とともに深めてきました。地域と世界、学級・学年と学校、教科と総合、能力と態度などのように、一見、異なる文脈で語られることが多い用語を関連づけ、学校全体が持続可能性に向き合う取組を深めてきました。

令和 5 年度(2023 年度)においては、文部科学省「SDGs 達成の担い手育成(ESD)推進事業」(多様なステークホルダーとの協働による人材育成)の採択を受け、協働と学習のプロセスの運動性の強化に取り組んできました。横浜市において進めている SDGs 達成の担い手育成事業と、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」を含むキャリア教育事業は、これまで十分に事業間の連携がとられてきていませんでしたが、第 4 期横浜市教育振興計画において、一体的に進める方針が出され、この振興計画を具現化する取組として位置付けられました。まさに、事業間連携を通して、子ども自身が、自分に自信をもって、夢や希望を持ち、互いの力を持ち寄りながら、より良く生きていけることを目指していると言えます。本事業に関わる個性ある学校は、VUCA 社会に対応し、持続可能な社会の構築にむけて、当初から ESD を学校全体で取り組むことを軸に据えるという「ホールスクール・アプローチ」を採用してきています。是非、本報告書を通して、横浜の学校における、「ホールスクール・アプローチ」の取組や、学習と協働の往還による探究モードへの挑戦を読み解いていただければ幸いです。

この冊子に見出される知見が、横浜の、国内各地の、ひいては世界各国の持続可能な未来に向けた教育のさらなる展開の一助になれば幸いです。

横浜市 ESD 推進コンソーシアム・コーディネーター
 東京都市大学大学院 環境情報学研究所 教授

佐藤 真久

本市の令和 5 年度 ESD 推進事業について

本市における ESD 推進事業は、平成 28(2016)年度の文部科学省の「グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業」に採択され、横浜市教育委員会として、横浜市 ESD 推進コンソーシアムを組織することに始まっている。それより昨年度までの推進事業については、巻末の参考資料に掲載しているので参照していただきたい。

令和 5 年度 事業の内容

本市では、平成 28 年度から、ユネスコスクールを中心として推進校を指定し「学校運営(ホールスクールアプローチ)」と「カリキュラムデザイン」の両面で ESD の実践に取り組んでおり、令和 5 年度の推進校は 27 校である。

また本市では、同じく平成 28 年度から、キャリア教育実践プロジェクト事業の 1 つとして、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」を実施している。この事業は、企業・地域等の方々と横浜の児童生徒が連携し、商品開発・地域貢献に関する学習を行う中で、児童生徒の社会参画に対する意識を高める取組である。参加にあたっては、連携機関と連携していく際に、目標や活動内容の共有をしやすくするため、学習活動の中に SDGs の視点をもつことを提案しており、令和 5 年度の参加校は 73 校で、取組数は 171 取組である。

本市は、平成 30 年 6 月に SDGs 未来都市に認定され、「横浜市中期 4 年計画」では SDGs の視点を踏まえた取組となるように中長期ごとに SDGs の目標との関連付けをするものとしている。また、おおむね 10 年の本市の教育を方向付ける「横浜教育ビジョン 2030」で「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」の育成を目指し、「グローバルな視野をもち、持続可能な社会に向けて行動する力」を育むとしている。そのアクションプランである「第 4 期横浜市教育振興基本計画(2022~2025)」では、柱 2「ともに未来をつくる力の育成」施策 2「持

続可能な社会の創り手育成の推進」を掲げ、持続可能な社会の創り手を育成するために、地域・企業・NPO などと連携・協働して、教育を通してよりよい社会や新たな価値を創造することを目指すことを示している。

そして、実社会における課題の解決に向けて行動する人を育むため、「SDGs 達成の担い手育成(ESD)」と「自分づくり(キャリア)教育」を一体的な推進を目指すことにした。2 つの事業を一体的に推進していくために、2 つの側面から、多様なステークホルダーとの協働による人材育成を図っている。

「学校運営(ホールスクールアプローチ)」については、令和 2 年度に ESD 推進校に実施した東京大学の調査(対象:児童生徒 2,631 名、教員 683 名)から、「ホールスクール(学校全体)としての取組の方が児童生徒の知識・態度・行動に影響を与えている」という分析結果が出ており、ESD のホールスクールアプローチで学校運営を見直していくことを支援している。具体的には、図 1 のように学校教育目標と教育活動の関連付けをする、つまり、目的と手段の論理的なつながりをもたせるとともに、学校教育目標の実現に向けて育成したい資質・能力を教職員の中で議論し、共通理解を図った上で教育活動を実践していくということである。このことは「ESD for 2030」の優先行動分野とも一致している。



図 1 推進している教育活動の全体イメージ

そして、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」も学校教育目標と関連付けて取り組むことで、明確な指標を示しながら地域・企業・NPO

などと連携・協働を進めていけるように支援している。これまでは、図2のように相互を補完する関係であった「向き合う協働」としての取組が多く見られていたが、ホールスクールアプローチを取り入れることで、共有ビジョンに向けてともに歩み続け、価値の創造をしていくといった「星見型の協働」を「はまっ子未来カンパニープロジェクト」でも実現を目指している。

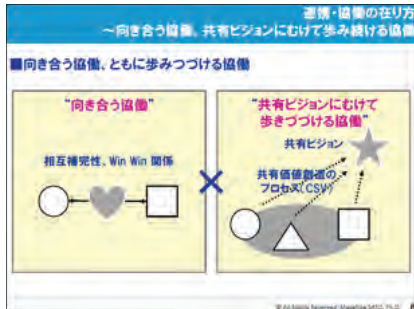


図2 向き合う協働、ともに歩み続ける協働

次に「カリキュラムデザイン」については、国立教育政策研究所が示している『「持続可能な社会づくり」の構成概念(例)』と「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」(以下「構成概念」「能力・態度」)を基に、各推進校でESDを通して育成したい資質・能力と関係付け、それらをどのように育成するか授業研究等を通じて明らかにしている。前述の質問紙調査で本市の児童生徒や教職員として改めて課題として明らかになった「学習を進める中で、SDGsの目指す環境・経済・社会の三側面の関連性をどのようにしてもたせるか」という点についても引き続き検討している。そして、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」もSDGsと関連させて取り組むことで、地域・企業・NPOなどと共有ビジョンを構築する際の共通言語となるようにしながら、連携・協働を進めていきやすいように支援している。

みなとみらい本町小学校(以下MM本町小)は、ESDの推進を学校教育目標に掲げて学校運営を行っている。様々な教育活動が学校教育

目標(ESDの推進)と結びついているかどうかを可視化するために「ロジックモデル」を作成し、その実現状況を「協働型プログラム評価」を行うことによって、学校運営の見直しや改善に役立てている。令和4年度は「社会に開かれた教育課程の実現」という視点を軸に「学級でのESDロジックモデル」を活用したESDによるホールスクール(コミュニティ)アプローチの研究を行っている。従来、教職員や学校運営協議会委員で策定していた「ESDロジックモデル」(図3)について、児童が、「学級でのESDロジックモデル」の策定に関わる「当事者」として自らを変容させている。このMM本町小のホールスクール(コミュニティ)アプローチを基底として「ESDロジックモデル」を一般化し、簡易に活用できるようにさらに研究を進めて普及を図ろうとしている。



図3 MM本町小のロジックモデル(抜粋)

全市立小中学校(約500校)に対して実施している「教育活動実施状況調査」において、各学校のESDの取組状況について調査し、推進校も含めた経年変化を踏まえて本事業の方針を検討している。そして、本市実施の「学力・学習状況調査」の児童生徒を対象とした「生活・学習意識調査」に、ESDの学習意識に関連する設問を令和4年度から設定し、児童生徒個々のESDの学習意識を把握して分析している。

成果の普及については、本実践報告書及び「はまっ子未来カンパニープロジェクト」パンフレットを作成して取組内容を発信するとともに、年度末にESD交流報告会や「はまっ子未来カンパニープロジェクト」学習発表会を実施して、本市教職員のみならず、他地域のESD推進諸団体に対しても発信している。

第1章

横浜市立 ユネスコスクール・ESD推進校の実践事例